

## 6. アルバイト店員 E(23 歳・フリーター・厨房/レジ・救急要請者)

- **【隠された背景】:** 以前、別のブラックバイトで同僚が過労で倒れた経験があり、「組織は自分たちを守らない」という強い警戒心を持っていた。学生の時にテントの一酸化炭素中毒について、学んでいた。
- **【当日の状況】:** CO 中毒は気が付かないうちに進むことを知っており、頭痛と吐き気から、一酸化炭素中毒ではないかと、気づく。A に疎まれながらも、「自分が動かなければ全滅する」という正義感から自分の携帯で通報した。
- **通報した後、店長に報告したら、そういうことをしたら、店の評判が台無しになる、先月閉めた U 店も、お客のうわさからつぶれた、と言われ、消防に取り消しの電話をした。店長は、花粉症で頭が痛いだけ。と言っていたが、吐き気はどうなんだろうと、AI で検索していたら、消防から携帯に折り返しの電話があり、「その後どうですか」と聞かれたので、「吐き気がある人がいます」と答えたら、救助に向かいますと言われた。店長には、黙っていたら、5分ぐらいで救急車が到着して、店長などが対応していた。**
- **【心情】:** 「自分がみんなを救った」という自負と、それを認めない周囲への怒り。でも、本当に良かったのか、店がつぶれるのかという心配。
- 自分自身は、店がつぶれても問題ないが、店長や正社員からは、恨まれるのかと心配。
- 自分がやったことが、正しかったのか、間違えだったのか、みんなはどう思っているのかとても不安。眠れない。でも、あそこでちょっと間違えると、何人が死んでいたかもしれない、と言い聞かせている。本当にそうかもしれないと思う恐怖も心の奥底にある。誰かに、何かを指摘されそうな漠然とした不安があり、食欲もないし、とても疲れた感じがある。
- このアルバイトは、やめようと思っている。
- この悩みを、母に話したら、母がとても怒って、本店に電話をしたら、きちんと対応します、と平謝りだったらいい。そのことは、誰にも言っていない。